

時がつくる建築

クロノカオスからクロノデザインへ

歴史的建築を創造的に再利用する

文化財という概念は、歴史的建造物の破壊という「野蛮」に対抗する方策として、19世紀に誕生した。だが文化財の理念がもたらしたものは、再開発（破壊）と文化財（保存）の二者択一であった（クロノカオス）。本スタジオ課題では、破壊でも保存でもない、歴史的建築の創造的再利用（クロノデザイン）の実践の可能性を探る。

「つくりかえる建築」ではなく「つくる建築」

設計対象：RC造、S造、煉瓦造など、木造以外の歴史的建築を選定し、それを創造的に改変する。既存の歴史的建築空間のポテンシャルを最大限に生かしつつ、同時に既存の建築空間を大幅に改変することを厭わず、現代社会の文脈に接続する魅力的な建築空間を創造してほしい。

「リノベーション」を理論化する

本課題の狙いのひとつは、理論不在と言われる現代建築の状況のなかで、リノベーションと呼ばれる建築行為を理論化してみようということである。歴史的な建物を対象とすると、どうしてもオーセンティシティのモラリティが立ち現れ、最小限介入の設計に陥りがちである。本課題においては、歴史的な建物を創造的に改変した事例の researched にもとづき自ら理論武装したうえで、歴史性の継承と大胆で創造的な再利用を両立させるデザインを模索し、実践してほしい。

スタジオの進め方

前半（5/16中間発表まで）は、西洋の事例研究をする。後半は対象建物を選んで設計する。

エスキス

毎週火曜日、14:00～

加藤研究室（306号室）にて

指導メンバー

加藤耕一准教授

TA：印牧岳彦・ほか

ゲスト建築家によるレクチャー

参考文献

時がつくる建築

リノベーションの西洋建築史

加藤耕一

Architecture in Time:
Survival of buildings
through history and social change
Koichi Kato

¹ レム・コールハース『S・M・L・XL』ちくま学芸文庫、pp. 93-97